

受章者 被表彰者 紹介

叙位の受章者および各表彰の被表彰者を紹介します(敬称略)。

叙位

◆従六位



浪川茂夫
(八日市場イ)

平成11年4月に八日市場市議会議員に初当選以来、26年10月まで4期15年7カ月の長きにわたり地方自治の進展に大きく貢献。市議会議長、市議会運営委員会委員長など数々の役職を歴任し、市政の発展、住民福祉の向上などに尽力されました。
(令和4年10月9日逝去)

表彰

◆更生保護事業功労者表彰

▽全国保護司連盟理事長表彰



神子真一
(上谷中)

伊藤芳樹(堀川)
※希望により氏名のみ掲載。

(家族功労者)

伊藤典子(川辺)
※希望により氏名のみ掲載。

▽関東地方保護司連盟会長表彰



小川不二夫
(新堀)



柴田桂子
(野手)



平山新治
(椿)



増田正義
(春海)

▽関東地方更生保護女性連盟会長表彰



石井初枝
(内山)

◆厚生労働大臣感謝状
▽献血協力団体
八日市場ライオンズクラブ

◆千葉県知事感謝状
▽献血協力団体
匝瑳市赤十字奉仕団

◆日本赤十字社社長感謝状
▽献血協力団体
社会福祉法人九十九里ホーム

謝状

松山を歩く 神社の正月

匝瑳探訪
200

松山神社は江戸時代、幕府から10石の朱印地を与えられた市内で唯一の神社でした。1591(天正19)年の「下総国匝瑳松山神領帳」(千葉県指定文化財)からは、屋敷地を含む約2町歩(ヘクタール)の田畑を15軒の農家と7カ寺と神主が耕作し、屋敷地に住む神主は朱印地の約3割を所有したことが知られます。

神社には1年間の行事を記した「年中御祭事社用帳」(1752(宝暦2)年)が伝わっています。それによると、正月三日は年男役が神社に詰め若水をくみ神前に供えます。3日が初の祭礼で、7日に七草がゆと妙見の祭礼、13日は鳥居のしめ縄の掛け替えが行われました。15日に現在も行われている「筒粥」



筒粥神事の様子

は14日夕方から準備にかり、当日の祭事の内容も詳しく書かれています。松山神社の正月の行事は23日の子安大明神の奉社で一区切りとなりま

す。この社用帳は1748(寛延元)年に神社側と2人の農民と1カ寺の間でもめ事があり、幕府の裁許(判決)が出たので、今後の祭事確認のために書かれました。

松山村は旗本が支配する土地と神社領に住む農民とに分かれ、1843(天保14)年ごろの家数は34軒、およそ半数が神社領民であったようです。これらの農民は1カ月に3度順番に境内の掃除をする、祭礼など7カ寺とともに行事の役割を果たすことなどが決められていました。

社用帳には正月の祭事に続いて4月の東照宮の御祭、9月の野手浜への御浜下り、老尾神社や松山神社境内にまつられる諸社の祭礼、12月の門松飾りまで細かに寺や領民の名前が書かれています。400年以上続く神社と地域の人々のつながりは、今なお強いものがあります。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

関秘書課広報広聴班

☎73・0080

文芸コーナー

短歌

依知川雅一 推薦

抜け落ちる仲間もあらむ雁の群れ

ごとく生きたし令和の五年

大木 洋一

師走入り今日のお風呂は花梨かりんの湯

オレンジ色の湯船香り良き

鈴木 知子

亡き友の遺影セピアになろうとも

友への想い色あせぬまま

鈴木 志子

どうにもならないことをならぬまま

生きていくしかない悟りし

内藤喜代美

土だんご並べし女孫はラインにて

古希に入りたる吾を励ます

木下 昌子

風にのり遠いむかしの母の声

よい子はネンネラバイ優し

桑原 宏子

日が昇る橋の欄干黒さは

吾より先に席を陣取る

高橋百合子

川口城司 推薦

庭に咲く黄菊供へてうつし絵の

父に真向ふけふは命日

稲葉 雪子

日陰故横に六メートル真すぐに

伸びし長枝切り落としたり

石田 治

俳句

椿 和枝 推薦

ゆるやかに仏事のつづく花八ツ手

靴下の五本の指や大根引く

大川 宜子

文机は老のオアシス冬の雨

老人の一歌曲がる葱畑

岩井 やす

夕映えにほっこり淡しひめ椿

一すじの飛行機雲や枯すすき

椎名 晴江

冬の日を浴びて耕す三世代

光瀬甲江子

川口城司 推薦

柚子風呂や習いし唱歌声高に

石路の雨にうたれて冬近し

須貝 玉枝

川柳

勝又康之 推薦

生きて居る元気ですかの年賀状

ご無沙汰も賀状戴き無事を知る

江波戸京子

おめでとう年賀の電話曾孫から

ぴょんと跳ね兎のダンス年賀状

土屋 秀雄

まだ元氣証届ける年賀状

卒寿近し増える喪中に減る年賀

佐久間美智子

奏で出るスマホ年賀に癒される

ぴょんと跳ね兎のダンス年賀状

鈴木千恵子

川口城司 推薦

ご挨拶「あなたワクチン何回目」

コップ持つ今日も健康感謝する

野仲てつ幹

W杯負けりゃみんなが評論家

熱田真こと

石田 津

力作募集中

宛先：匠瑛市秘書課広報広聴班 〒2289-2198 匠瑛市八日市場ハ793番地2
TEL 073-0080 FAX 72-1114

隊員ながおの そうさ発見発信

No.01

地域おこし協力隊員、長尾将徳さんがSNSで発信した匠瑛市体験をピックアップしてお知らせします。

全国的にも珍しいお神輿+お囃子のセットを紹介しました。

着任早々、萬町親和會さんのお囃子稽古にお邪魔しました。移住のきっかけになった八重垣神社祇園祭のお囃子を体験できて感動しました！ お稽古では、子どもから大人まで幅広い年代の人が息を合わせて練習していて、小さな頃から育まれるお祭り愛を実感。太鼓を叩いてみるとリズム感が難しかったですが、今年のお祭りに参加することを夢見て稽古に励みたいと思います。



令和4年11月19日、万町会館にて

SNSで 情報発信



隊員としての活動をSNSで発信しています。

友だち登録、フォロー、いいね！
よろしくお願いします。

LINE

▶友だち登録はこちらから



Twitter

▶ツイッターアカウントはこちらから



Instagram

▶インスタグラムのアカウントはこちらから

